

#女たちは黙らない



一人ひとりの尊厳を勝ち取る日まで

#With You #Me Too

朝鮮半島の和平の行く末に世界が目を見つめていた4月27日、財務省は福田前財務次官のセクハラ認定をひっそりと発表。音声データなど明らかな証拠があるにもかかわらず、本人はセクハラ行為を否定したままだが、財務省は調査を打ち切った。まして許せないのが、この間の閣僚や財務官僚による被害者に対するセカンドレイプ発言だ。

こんな繰り返しはもう許さないと4月28日、新宿駅アルタ前で「#私は黙らない0428」が開催された。大学生ら個人がSNSで呼びかけた。高校生、イラストレーター、LGBT、主婦：多様な年代と立場のスピーカーが自分の言葉で語る。大学院生の本間信和さんは「圧倒的に男性優位の中で、自分も加害者になるかもしれない。自戒をこめてジェンダー差別に反対している。被害者が泣き寝入りし、責められ、声を上げて無駄だと思わされる社会を止めなければ」。

福田和香子さんのスピーチからは怒りとともに、強く熱いメッセージが伝わってきた。レイプ被害に遭った直後「あなたがそんな格好しているからいけないでしょう」と言われたという。

「私の選ぶ洋服は、招待状でも許可証でもない。私たちは、商品でも人形でもない。私たちに、呪いの言葉をかける社会に声を上げ続ける。怒りにふたをしてきたあなたには、パワーがある。自分の可能性に向き合つことを諦めなければ、呪いに打ち勝つことができる」。

これで終わりにはさせない。あらゆる差別と暴力に、私たちはそれぞれの場所で声を上げ続ける。一人ひとりが尊厳を勝ち取る日まで。

(池田万佐代)

本紙3月10日号「叫ぶ芸術ーポスターにみる世界の女たち」を思い出して欲しい。「男女平等法の歌」と題したノルウェーのポスターは、弦楽器(各条項を示す)が3重奏を奏でている象徴的な図柄だった。

そのノルウェーに恋した三井マリ子さんが世話人を務める全国フェミニスト議員連盟が、選挙改革フォーラムと共催で4月20日、国際シンポジウム「選挙を変えれば暮らしが変わるーモノトーン議会からオーケストラ議会へ」を開いた。ノルウェー、ニュージーランド、韓国大使館からのスピーカーは、それぞれの国の選挙制度とクォータ制、暮らしへの影響について話した。

■ノルウェー



トム・クナップスコーグさん (ノルウェー)

家庭と職場で男女平等をめざしている。1〜5歳の9割が保育園に行っている。育児はパパにも割り当てがある。企業のクォータ制は2008年には達成したものの、女性の上級管理職は少ない。

一方の政治分野は、男女平等が進んでいる。昨年の国政選挙では4割以上が女性議員になり、首相、外務大臣、財務大臣が女性になった。連立政権3党の党首も女性だ。

クォータ制が導入されている政党は多いが、法が政党に規制してはいない。制度を決めていない党も女性部が強く、候補者はほぼ男女同数だ。女性議員が多いのは比例代表制なので、女性が政党の候補者名簿に

国際シンポジウム 選挙を変えれば暮らしが変わる～モノトーン議会からオーケストラ議会へ～

ジェンダー平等先進国に学ぼう

掲載されればよいからではないか。

■ニュージーランド



テサ・パースティグさん (ニュージーランド)

昨年37歳の女性首相が誕生。6月に出生予定で、6週間の産休をとると宣言、その間は連立を組んでいるNZファースト党の党首(マオリ族)が代行する。

かつては小選挙区制だったが、大政党が生まれ、政権に対する抑制と均衡が効かなくなり、国民投票で、1996年小選挙区比例代表併用制に変えた。政党と選挙区候補者にそれぞれ投票するが、政党の獲得票で議席数が決まる。

女性の選挙権は世界で一番早かったが、女性議員が増え始めたのは80年代からで、比例代表併用制を入れてジャンプした。昨秋の選挙で38%になった。国会に乳児を連れてくる女性議員もいる。首相のほか、国家元首にあたる総督も最高裁長官も女性だ。しかし、まだ5割になっていないから、さまざまな改革が試みられている。

■韓国



キム・デ・イルさん (韓国)

2000年にクォータ制を導入し、18年経った。保守政権が続き、

女性が政治に参加する環境になかったから制度化の必要があった。大別すると、公職選挙法と政治資金を改正した。政党交付金の10%は女性のために使うようになった。比例枠にクォータ制を導入したが、努力条項だったので増えなかった。違反政党の候補者名簿登録を無効にしたら増えた。地方選では広域(県レベル)だけだったクォータ制を基礎(市レベル)にも導入した。

数が増えたことで質も変わった。意思決定の場への女性の進出で女性同士の連携も進み、政治文化もかわり、男性が女性関連法を発議することも出てきた。今後、小選挙区のクォータ制を強制にすることが、比例枠の数を増やすことが求められる。

報告を受け、活発なやりとりが続いた。Qの会の川橋幸子さんは「女性の政治参画推進法がようやく衆議院を通過した。国会のゴタゴタで参議院の目途は立っていない、今度こそ通したい」と発言。

韓国の話からはクォータ制を通すのが第一歩だと受け止めたが、ノルウェー、ニュージーランドの話からは、小選挙区制のままでは実効性がないのかなと感じさせられた。

ノルウェーは100年前、ニュージーランドは22年前、「小選挙区は民意が反映されず不公平」という声があがって、比例代表制(NZは比例代表中心の併用制)になったという。私たちが「女性の声を政治に反映させろ」と言い続けることが必要だろう。



三井マリ子さん

